

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社 ウェル・ピーニング		
事業所名	グループホーム とらいあんぐる 太陽		
所在地	札幌市白石区菊水元町5条2丁目2-18		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	平成23年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様 個人を尊重しサービスの押しつけはしないようにしています。</p> <p>入居者様・スタッフ間の言葉使いは、相手を尊重した言葉使いにしています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0170503817&SCD=320
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階
訪問調査日	平成23年3月3日(木)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、住宅街の中にある9階建てマンションの1階にあり交通の便もよい。利用者は、日当りのよい居間や居室で、ゆったりと思いいに過ごされている。共有空間の壁には、行事などで写したスナップ写真をワイド版で掲示するなど、利用者サイドに立った配慮が有り、利用者は勿論、訪問された家族にも大変見やすいと喜ばれ、楽しまれている。管理者、職員は、利用者ひとり一人の思いや意向の把握に務め、常に寄り添いながら繋がりを深め、よりよい生活の構築に工夫と取り組みを真摯に行っている。職員は、ケアプランに基づいた運動療法の評価表、プラン実施表などのチェック方法を工夫し、利用者の運動能力のレベルアップに努め、日々ケアサービスの向上に取り組んでいる。また災害対策の一環として、「日常自主点検表」を活用して、日々点検を行うなど、防災の意識も高く、利用者の穏やかで安全な暮らしの継続に繋げている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・ホールに掲示し、ユニット会議やカンファレンス時に話し合い、共有して実践につなげている。	理念は、玄関、居間の見やすい所に掲示しユニット会議やカンファレンスで話し合い、職員の共有を図って実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事、運動会や花植え、清掃等に積極的に参加して交流している。	事業所は町内会に加入し、春の花植え、清掃作業などの行事に、利用者の力量に応じて職員と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方々に認知症の理解と入居者様の状況など、支援の方法をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様へのサービスの状況、評価の報告は行い、頂いた意見などは、ユニット会議を通じサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、日時は議事録を届ける時に決定している。会議では利用者へのサービス状況を報告し、話し合いで出された意見は、事業所のサービスの質の向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、包括の職員に参加して頂き、情報交換をしている。	市の担当者とは連絡を密にし、情報交換をして協力関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習会等に参加し理解している。やむをえず必要な場合は、身体拘束に関する説明書を用いて、家族へ説明、捺印を頂いている。玄関の鍵は防犯上施錠、夜間帯にしている。	職員は、身体拘束の講習会等に参加し、身体拘束に当たる具体的な行為について、正しく理解し、周知徹底している。家族にも身体拘束に関する説明を行い、同意・捺印を頂いている。玄関は、防犯上夜間は施錠を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加や、ユニット会議にて話し合い、安全・安心を念頭におき、防止に努めている。		

グループホーム とらいあぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加している。内部の研修も含め、活用していくようにする。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社の担当者、管理者 2名以上の立会で、ご家族に十分説明し理解していただいている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の要望は十分に話を聞き、ユニット会議等で話し合っている。また、意見箱の設置もしている。	職員は、利用者、家族の意見や要望が表出しやすいように日頃から家族の訪問時には声かけや挨拶を心がけている。「太陽通信」を毎月発行し、利用者個別に日々の状況を書き添え、家族に送付している。玄関には意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の、ユニット会議と、本社にて管理者会議で反映している。	管理者は、毎月のユニット会議で職員の意見を聞き、法人内の管理者会議でも話し合って意見の反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を整備しながら努めている。また、研修などには、勤務時間内で行けるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加して技術の向上を図っている。また管理者を中心に新入社員を育てていく取組もできている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市等の管理者会議に出席して情報交換を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用し、ご本人からお話を伺いながら不安を取り除き、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望についても十分お伺いして、話し合いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の情報を基に、必要としているサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に、行事の過ごし方を教えて頂いたり、料理の盛り付けなど一緒にして関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況は家族にお知らせし、面会時などに情報を共有しながら支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会は歓迎しており、関係が途切れないように努めている。	事業所には、利用者への訪問客が多い。利用者との面会を歓迎し馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内のレクに、ほぼ毎日全員で行っており、利用者同士関わられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時には相談やフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりから話を聞き、意向に沿えるよう努めている。	管理者、職員は、利用者の思いや意向の把握に努めており、些細なことも記録して職員間で共有を図り、利用者の意向に沿うよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	センター方式を利用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りなど、スタッフ間で情報を共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、スタッフ間で話し合い、ご家族様の意見も聞きながら計画作成している。	センター方式を活用し、利用者、家族の意見や要望を反映した介護計画を作成している。職員は毎日、実施評価表のチェック記録を基にモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、申し送りなどで情報を共有して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事などを取り入れ、柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加したり、ペン習字に通われたりして生まれ、防災訓練にも参加頂き、安全に暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に説明同意を頂いたうえで、週に1度の往診を行っている。	事業所では、家族に説明し同意書を頂いた上で、週1回、協力医の往診を受けている。また利用者や家族の希望する医療機関があれば受診も支援している。	

グループホーム とらいあぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師が健康管理及び相談できるようにしている。また往診医との情報交換も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー様と情報交換しながら相談にのって頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療機関・医師と話し合い、支援に取り組んでいる。	事業所では、早い段階から重度化や終末期について、話し合いを行い、状況に応じて家族、医療機関、職員とで対応方針の共有を図りながら、取り組む姿勢が伺える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料による内部研修は行っているが、実践に向けて講習会等を行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回の防災訓練を行っており、地域の方とも連絡網にて協力体制を築いている。	年3回消防署の協力のもとで、防災訓練を行い、地域との連絡網もできている。事業所では、「日常自主点検表」で毎日チェックして防災に取り組んでいる。	事業所には、スプリンクラー、緊急通報システムの設置が望まれる。また、防災訓練の際には、地域住民の具体的な参加要請も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに日々取り組んでいる。	管理者、職員は、日々の生活のなかで利用者一人ひとりの人格やプライバシーを大切に、誇りを損ねない声かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺い、自己決定できるよう支援している。また、不安そうにされている時は、ゆっくりと話を聞き自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、自由に過ごして頂き、希望にそえるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な服装で入れるよう支援している。また、訪問美容の利用も行っている。		

グループホーム とらいあぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をして、可能な利用者には、料理の盛り付けや、配膳、食器洗いなど職員と一緒にやっている。	事業所では、利用者も力量に応じて食事仕度や配膳下膳などを手伝い、職員と同じテーブルに着いて、ゆっくりと楽しく食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎日チェック記録して、全職員が確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合う形で、見守り・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンはアセスメントシートに記録し、申し送り時など情報を共有して、自立に向けた支援をしている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し記録して、職員間の申し送りでも情報を共有しながら、自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、水分の提供などで対応しているが、薬で対応する場合もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はこちらで決めているが、本人の希望や状態に合わせて対応している。	事業所では、入浴の曜日や時間帯は決めているが、利用者の希望や体調にあわせて考慮し、対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何か活動をした後には休息をして頂くように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認しながら提供している。症状の変化にも注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いなど、利用者様が得意とすることを日々の役割、活動に取り入れている。		

グループホーム とらいあぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援で外出されている方もおり、天候に応じてお散歩や、買い物などの支援の行っている。また外出行事なども行っている。	事業所では、近隣の散歩や買物は日常的に行っており、外出行事も計画している。また、家族と共に外出したり、誕生日には、職員と外食してお祝いすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員がお預かりして、買い物などの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをされている利用者様もいますし、希望があれば、電話などの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居室には季節ごとに飾りつけをしたり、写真を貼るなど生活感や季節感を出し、居心地よい空間作りに努めている。	居間は、日当たりもよく畳の小上がりががある。昔馴染みの家具も置かれ、季節感のある手作り作品や花を飾って家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の食卓テーブルやソファにて利用者真同士談笑されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みの家具や衣類を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせる様に工夫している。	利用者一人ひとり使い慣れた家具などを持ち込み、家族の写真を飾ったりしてその人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー化しており、各居室や、トイレ、洗面所などわかりやすく表示している。		